

くつろぎタイム

vol.219 2024.6

編集・発行：八頭町立図書館

郡家図書館 八頭町宮谷 256-4

船岡図書館 // 船岡 539-1

八東図書館 // 北山 48-1

『ぼくのお父さん』

矢部太郎 著／新潮社

芸人・マンガ家の著者が自身の「お父さん」のことを描いた漫画作品。絵本作家のお父さんは、太郎さんが転んでも、泣いても、どんなときでも、その姿を絵に描く。ご飯のおかずまでも描こうとするから、おかげでおかずはどんどん冷める。

本を開けば、著者の描くほんわかな世界が広がっている。



6月16日は
父の日だなあ。
どれ、何か「父」
にちなんだ本でも
読むか。

『傑作はまだ』

瀬尾まいこ 著

ソニー・ミュージックエンタテインメント

加賀野^{かがの}という男のもとに、生まれてから一度も会ったことのなかった息子・智^{とも}が現れた。25歳の息子といきなり始まった同居生活で、加賀野は無関心だった外の世界のこと、そして智のことに少しずつ目を向けていく。

なぜ、智は父のもとにやってきたのか。気になる一方、智との生活の終わりが近づいていた。

『銀河鉄道の父』

門井慶喜 著／講談社

仕事のため、岩手から京都に来ていた政次郎^{まさじろう}のもとに、長男が生まれたという電報が届く。「賢治^{けんじ}」と名付けられた子は、後に童話作家「宮沢賢治^{みやざわけんじ}」として知られる。

賢治と家族が過ごしてきた日々の歴史が、父・政次郎の視点で描かれる。これは、宮沢賢治の生涯を知る物語であり、息子と向き合ってきた父・政次郎の物語でもある。

『井上ひさしから、娘へ』

井上ひさし・井上綾 著

文藝春秋

2004年から2009年までタウン誌「月刊いちかわ」で連載された、作家・井上ひさしさんと次女の綾さんの57通の往復書簡をまとめた1冊。

家族との様々なエピソードもありつつ、井上ひさしさんが綾さんに向けて紡いだ言葉の中には、読者にもきっと響く言葉が見つかるはず。

連載が終わった5ヵ月後の2010年4月に井上ひさしさんは永眠された。

『牧野富太郎 日本植物学の父』

清水洋美 文 里見和彦 絵

汐文社

朝の連続テレビ小説「らんまん」の主人公のモデルとなった植物学者・牧野富太郎^{まさきのとみたろう}。幼少期から植物に興味を持ち、やがて植物学を更に深めるため上京する。生活が苦しくても、研究することを決して断念しなかった。

植物を我が子のようにどこまでも愛し、発見して名前をつけた植物は1500種類。まさに「日本植物学の父」である。

お父さん大集合